



視察研修報告

(山形県天童市立天童中部小学校)



綿内小学校 吉田祐紀

綿内あったかプラン



授業

- 「綿内版UD」の進化・徹底
- 個に寄り添う指導の充実
- 児童の困り感に応じたICTの活用

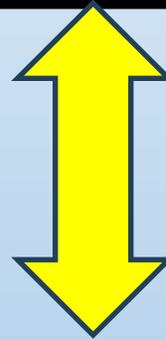
どの子も安心して挑戦し、自分らしく輝ける学校

友達

- 「あったかタイム」の充実
(対人関係ゲームの継続実施)
- 児童会「わたっ子ペア等による異学年交流

先生

- 学校全体で取り組む「ポジティブ行動支援」
- 複数の教職員(チーム)で一人を見守り・支える



校内連携体制の質的な向上

- 特別支援連携ミーティング(特別支援学級担任と原学級担任の情報共有)
- 登校支援スクリーニング会議(年4会)
- 特別支援Co、登校支援Coによる教室巡回支援
- 校内教育支援室「あったかルーム」の設置と運営
- 外部専門家、関係機関との連携

学び続ける子供の育成 ～ 子供理解に基づくアプローチ ～



- ① 自学自習
- ② フリースタイルプロジェクト（個人総合）
- ③ マイプラン学習（単元内自由進捗学習）

2割

8割

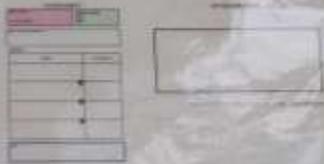
	フリースタイル プロジェクト	マイプラン学習	自学・自習	仲間と教師で 創る授業
学習内容	総合	教科		
学習形態	個別最適な学び		協働的な学び	
計画主体	子ども(たち)			教師

① 自学自習

・・・教師に代わって、数人の子どもたちがクラスで授業を行う

自学自習の流れ

- ① 計画
 - ・ 単元計画【授業内】
 - ・ 計画表(1)(2)の作成【事前打ち合わせ前まで】
 - ※ 計画表(2)は必要だったらOK!
- ② 事前打ち合わせ【前日】
- ③ 授業
 - ・ 考えることを楽しむ!
 - ・ 問いかける!
- ④ ふり返り
 - ・ 個人→ふり返りシートへの記入。3分程度。
 - ・ 係→授業後orその日の放課後に5分程度。



子どもの自己調整力・有能感・満足感を高める

教師自身の授業の振り返りや授業改善につながる

②フリースタイルプロジェクト

・・・4～6年生の子どもたちが個人で行う総合的な学習の時間



探究に向かうための子どもたちのテーマ決めや振り返りの設定

自ら学び方を決め、自ら追究する楽しさを感じる時間にする

③マイプラン学習

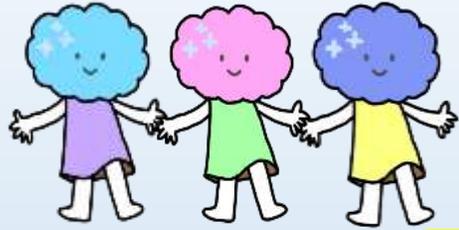
・・・単元の学びのゴールを決めて、子どもが自分で計画を立て自分のペースで行う学習(自由進度学習)



子どもたちが学びに向かう環境、学びを選択できる環境を整える

何のために学んでいるか、学びのゴールを意識できるようにする

綿内あったかプラン



授業

- 「綿内版UD」の進化・徹底
- 個に寄り添う指導の充実
- 児童の困り感に応じたICTの活用

全員が同じやり方ではなく、子どもたちがいろいろな考え方で取り組めるようにめあてを設定している。

分からないことや困っていることがあった時に、子どもたちで協力・解決する場面づくりをしている。

個にかかわれるように、全体指示や説明は整理、短縮し、子どもたちに任せる時間をつくっている。

○外部専門家、関係機関との連携

R7 綿内学校 授業のUD充実チェックリスト ver.1

昨年度、綿内版授業のUDチェックリストを作成しました。学年・学期の実態や教科によって、すべてにチェックがつくことは難しいですが、意識して取り組んでみてください。今年度も、先生方のご意見を取り入れながらバージョンアップさせていただきます。1学期の終わりに振り返る予定です。

①めあてを明確にする（授業の導入）

- 実物や映像、絵カードなどの視覚・聴覚情報を入れた導入場面をつくっている。
- 学年や学級の実態に応じて、「学習問題」「学習課題」「まとめ」などのカードやホワイトボードを使って示したり最初ノートに1時間の流れを書いたりして、見通しをもてるようにしている。
- 子どもたちが自力で解決できるように、学習課題（めあて）を子どもたちの言葉で設定している。
- 全員が同じやり方ではなく子どもたちがいろいろな考え方で取り組めるようにめあてを設定している。
- 前時の復習をしたり、前時のふりかえりから学習問題を考えたりするなど、子どもたちが学習のつながりを意識できるようにしている。

②めりばりをつける（授業全体の流れ・展開）

- 授業にスムーズに取り組めるように、授業の流れをある程度パターン化している。
- 授業の中でペアや小グループなどの活動を取り入れ、全員が自分の考えを表現したり友だちの考えに触れたりする場面づくりをしている。
- 興味関心が同じ子どもたち同士で活動するようにするなど、グループビンゴを工夫している。
- 授業の中で、分からないことや困っていることがあった時に、子どもたち同士で協力する場面づくりをしている。
- 座って聞くだけでなく、話す、動くなどの活動や、子どもたちが居を離れられる時間をつくっている。
- 個にかかわれるように、全体指示や説明の時間はできるだけ整理、短縮し、子どもたちに任せる時間をつくっている。

③めあての達成を見とどける（授業の終末）

- めあてに沿ったまとめになっている。
- 個々の実態に合わせて、十分な振り返りの時間を確保している。
- 学年・学級の実態に応じて、考えを整理しやすい振り返りになっている。
- 友だちの考えに触れる場を確保している。
- 教師の一方的な感想やまとめで終わらず、子どもの納得・理解、疑問などに触れた授業の終末になっている。
- 実態に応じて、キーワードを3つくらい伝えたり、穴埋め文にしたり、まとめやふりかえりの書き方を子どもたちに示したりしている。
- 子どもたちのまとめやふりかえりカードに、返事を書いている。
- 「〇が楽しかったね」「〇ができたね」など、子どもたちの思いや達成したことを教師が言葉にしている。
- 個々の実態に合わせて、まとめの後に習熟度別のプリントや課題の時間を設けている。

④その他、どの場面でも共通して

- 授業に必要なものを確認し、子どもが授業に必要なものを机に置くように指示している。
- 活動に制限時間があるときは、タイムタイマーなど使って区切りの時間を分かりやすくしている。
- 開始と終了の時間を必ず守っている。（45分以上必要な、あらかじめ計画し伝える）
- 作品の見本や例を見せる。
- 指示は、子どもの注意を向けてから、分かりやすい言葉ではっきりと短く伝えている。
- おまじり声をはりあげず、落ち着いた声で話す。（個別の時は低め、ゆっくり）
- 授業中のルールについて、学級の子どもと一緒に考えたものを子どもたちの言葉で示す。



支援」
・支える

と運営